

## はじめに

七瀬祓とは、『日本歴史大事典』に「陰陽道の祓。平安時代から天皇や貴族の間で行われ、息災、除病、安産等を祈願して行う河臨祓を、その効力を高めようとして七ヶ所で修するもの。七瀬は賀茂川の川合と一条、土御門、近衛、中御門、大炊御門、二条の末、また御冷泉天皇の代から、川合および耳敏川、東鳴滝、松崎、石影、西鳴滝、大井河など都の周辺でも行われ、これを靈所七瀬祓という。鎌倉幕府でも1224年(元仁元)に祈雨のため由比ヶ浜等の七所で修した。」と記載されている<sup>(1)</sup>。

金子裕之氏<sup>(2)</sup>は平城京の祭場を分析し、東堀川や大路側溝などから出土する人面墨書き土器(以下、人面土器)、木製模造品等について、「主として大祓に関わるものとすると、平城京内や京外に大祓の祓所が無数にあることになる。(中略) これは二つの要因、つまり、京の住民が各々の坊の周辺路上で大祓に参加したことと、祓の効果を上げるために同じ行為を複数回、場所を変えて行ったことが重なったためと思う。前者の正否は、今後の発掘の進展によって解決に向かうであろう。後者はのちの平安京における七瀬祓が有名で、平城京における無数の祓所はこの七瀬祓の原形と思う。私は、七瀬祓の芽生えが藤原京にあり、平城京で本格的に展開し、長岡京を経て平安京へ受け継がれたとの見通をもっている」と指摘している。

あわせて七瀬祓の地方の状況について言及され「律令国家の常として、中央で行ったことは地方の政府機関を通じてそのまま実施されることが多く、この七瀬祓についてもいえそうである。国衙のレベルでは但馬国府の推定地周辺の数カ所から人形、鳥形、斎串などの木製模造品がまとまって出土し、かつて但馬国の七瀬川と推定したことがある。(中略) このように、地方行政機関の周辺に京と同じ構造をもつ祓所が設定された可能性がある」との見解を示している。

このような、但馬国でのやり方が、越中国では高岡市の東木津遺跡周辺で確認できることを踏まえて、越中国での七瀬祓について考察してみたい。

### 1 東木津遺跡を含めた周辺の遺跡の出土遺物等の概要

東木津遺跡は8世紀後半~9世紀前半の布師郷関連の遺跡で、溝(SD60)などから斎串や人形などの木製祭祀遺物(以下、木製遺物)が約90点出土しており、大規模な祓の行為が行われたと考えている。

本遺跡周辺は、人面土器や木製遺物が出土している下佐野遺跡や石名瀬A遺跡、諏訪遺跡(本遺跡は木製遺物のみ)が所在している。東木津遺跡を含めて南北1.1km、東西700mの範囲に、人面土器や木製遺物が出土する溝や湿地、窪地が9カ所集中しており(図2)、このような出土状況は、他の郡域では確認できていない。またこの地域は、当時越中国府が置かれた射水郡域に該当し、国府から南西方向約9kmにあたる。

このことについて以前、筆者は「これら4遺跡を一体的と考えると、律令期祭祀遺物の出土地点は9地点になる。溝や湿地からの出土であるため、つながりが想定できるが、溝の方角などを考慮するといつかの祭祀場を形成していたことが考えられる。また、この地域は射水郡と礪波郡の郡境付近と想定でき、射水郡域において重要な場所と考えられる」と指摘したことがある<sup>(3)</sup>。

まず、東木津遺跡、下佐野遺跡、石名瀬A遺跡、諏訪遺跡の4遺跡から出土している人面土器や木製遺物などについて整理しておきたい。

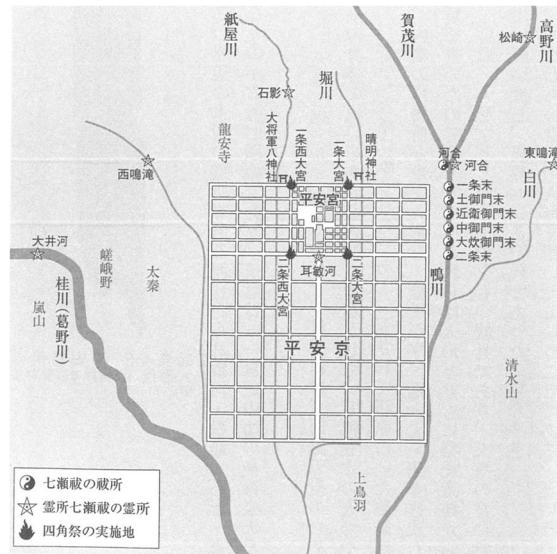


図1 平安京の祓所(山下 2010)

## (1) 東木津遺跡

本遺跡は高岡市木津に所在する(図2)。古代の遺構は、掘立柱建物43棟、竪穴建物1棟、鍛冶関連遺構、柵、橋梁護岸施設を伴う溝、道路、土坑、畝状遺構などがある。道路や溝によって形成される、東西52~54m、南北24~25mの区割が想定されており、区割の方位は概ねN-45°~Wに揃えている。竪穴建物1棟は斎串などの木製品の製作拠点と報告されている。

本遺跡では、人面土器は出土しておらず、木製遺物のみ

が出土している。その内訳は斎串63点、人形21点、舟形1点、馬形3点、鳥形1点、刀形4点、琴形1点、琴柱形2点あり、木製遺物の種類が多い。これらは湿地、溝、土坑からの出土しており、出土地点は5カ所に及ぶ。

湿地(SX06)は、本遺跡の東側に広がっている。湿地の肩部分から木製遺物が出土している。堀井地区(図3の55~77)では、斎串、人形、舟形、馬形、鳥形、刀形、琴柱形の木製遺物がある。都市計画道路地区(図3の46~49)では、斎串、人形、仏教用語である「悔過」墨書き土器が出土している。

両地区から出土する人形は、地区において人形のスタイルが似ている。前者では頭部を圭頭状にし、肩部は怒り肩と下り肩があり、同一スタイルで、ほぼ同じサイズ(図3の64・65)の場合と違う(図3の55~60)場合がある。後者では肩部は撫で肩に仕上げ、頭部には刺突によって目と鼻を作り出している(図3の48・49)。サイズはほぼ同じと思われる。出土地点である程度の規格性があり、後述するが、下佐野遺跡で、同じスタイルの人形が折り重なって出土したと報告されており、人形を数枚セットで使用した痕跡と考えられることから、本遺跡においても同様の使用方法が想定できる。

溝(SD60)からは、人形7点、斎串47点、刀形2点、琴形1点出土している。SD60は幅4~8.4m、深さ88cmで、北流してSX06につながると想定されている。また、本溝が直線的に延びるとすれば、南西方向に位置する下佐野遺跡の溝(SD002)とつながる可能性がある。なお、溝には橋梁護岸施設が構築されており、この部分より上流(北側)で木製遺物などが数多く出土している。人形はSX06同様に頭部等の作り方に3パターンの共通性がある(図3の36~42)。頭部に鳥帽子、目、鼻、口、顎髷が墨書きされている人形(図3の40)もある。斎串は大型で横に切り欠きをいたれた図3の35があるが、その他は両側面に切込みを入れるタイプ(図3の18~34)である。使用する斎串に規格性があると考えられる。木製遺物の他に墨書き土器95点、ヘラ書き土器61点、か帶金具、銅錢、木簡などがある。墨書き土器には「悔過」「節」、人名や地名と思われる「船木」「家万呂」「寺万呂」「達万呂」「達」「石見」「竹原」「田中」「川相」があり、建物など示す「明家」「宅」「南」「庄」、「キ」「井」「=」「×」などの記号が書かれる。「キ」が52点と最多で、SD60から出土した墨書き土器の55%を占める。ヘラ書き土器は「布忍郷」があり、本遺跡の性格を示唆している。

土坑から斎串のみの出土事例が2カ所ある。1カ所はSD60の橋梁護岸施設のすぐ東側のSP04で4点(図3の50~53)みられ、柱穴が並ぶもののひとつで、それら柱穴を報告書では鳥居や門の柱穴ではないかとしている。鳥居や門を建てる際の地鎮的な意味合いがあるのかもしれない。もう1カ所は湿地際の土坑SK219からの出土(図3の54)で、土師器や須恵器が共伴する。斎串は様々な場面で使用されるようだ。

## (2) 下佐野遺跡

本遺跡は高岡市佐野に所在し、東木津遺跡の南西側に位置する(図2)。8世紀後半から10世紀前半の遺

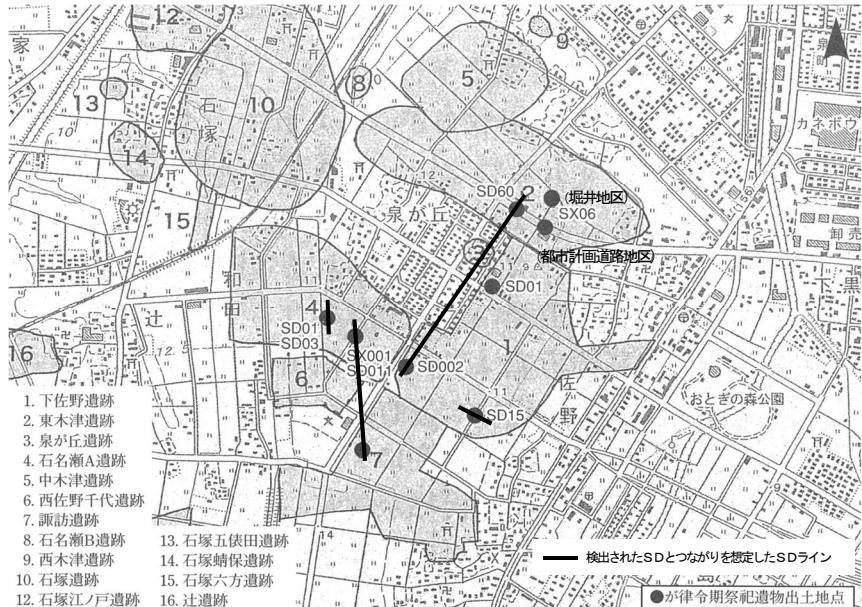


図2 東木津遺跡周辺の律令期祭祀遺物出土遺跡位置図(堀沢 2013)

跡である。本遺跡では、掘立柱建物 38 棟、柵、溝、道路状遺構、土坑、畝状遺構等が検出されている。

人面土器と木製遺物は 3 カ所から出土している。溝(SD15)から 9 世紀前半の人面土器 2 点(図 4 の 62・63)があり、口径約 20 cm、器高約 24 cm のほぼ同規格で、顔はともに三面描かれ、筆使いから、同一人物によると考えられる。木製遺物は伴っていない。溝は幅約 4m、深さ 2m の東西溝である。

溝(SD15)から西方約 150m 地点で検出された溝(SD002)から人面土器 1 点、木製遺物(図 4 の 1~60)が 136 点出土しており、大規模な祓が行われたと考えられる。木製遺物の内訳は、斎串 75 点、人形 42 点、馬形 6 点、鳥形? 1 点、舟形 11 点、陽物形 1 点となる。(報告書に掲載されている木製祭祀遺物は斎串 34 点、人形 35 点、馬形 5 点、鳥形 1 点、舟形 2 点である。) 時期は、8 世紀中頃から 9 世紀初めとされている。これら木製遺物と共に馬が描かれた「墨描土器」(図 4 の 64)が出土している。

1 遺跡での斎串の出土点数は、射水市北高木遺跡に次いで多い。報告書では 3 タイプに分類されている。A タイプ(図 4 の 32~40)は頂部を圭頭状にし、下端が尖るタイプで、両側面に上からの切込みを持つ斎串もある。B タイプ(図 4 の 41~48)は頂部を平坦に加工し、下端は一方から斜めにカットするタイプである。C タイプ(図 4 の 49~53)は角棒のタイプである。A タイプが多いようである。

人形の出土点数は県内の木製遺物を出土した遺跡で最多である。肩部は怒り肩タイプで、又部は三角形状につくり、手があるタイプの人形(図 4 の 7・9・11~15・17~21)が最も多い。長さ 63.8 cm、幅 6 cm、厚さ 0.5 cm にもなる人形(図 4 の 21)も出土している。この人形とプロポーションは同じであるが、幅が狭い人形(図 4 の 18・19)があり、東木津遺跡と同様に規格を揃えながら、サイズが違うタイプである。また、これら 4 点(図 4 の 18~21)は、図 4 の 22・23 とともに折り重なって、一括で出土したと報告されている。頭部に頭髪や眉、目、鼻、口、髭、乳首や臍が墨書きされている人形が 2 点(図 4 の 7・8)あり、筆使いから同一人物によると考えられるが、又部の作り方が違う。冠が表現される人形が 3 点(図 4 の 14~16)あるが、冠の表現方法がすべて違う。

この溝から 9 世紀末の人面土器(図 4 の 61)が出土しており、木製遺物とは時期差がある。人面土器と木製遺物はセットにならないようである。また、この人面土器は溝が埋没した後に穴を掘り、そこにほぼ正位で設置した状態で出土しており、祓というよりは、水神への供物としての意味合いが強いと考えられる。

本溝から北東方向約 200m 地点の溝状遺構(SD01)から人形(図 4 の 65)が 1 点出土しており、長さ 5 cm で、鳥帽子、眉、目、髭などが墨書きされる。墨書き土器は「西大家」「秋万呂」「富」「西」などがある。

### (3) 石名瀬 A 遺跡

高岡市和田地内に所在し、8 世紀後半~9 世紀の遺跡である。本遺跡の南東部は下佐野遺跡と隣接している(図 2)。古代では、溝、窪地、畝状遺構が確認されており、人面土器と木製遺物が 2 カ所から出土している。

溝(SD011)から人面土器 5 点(図 3 の 1~5)、斎串 1 点(図 3 の 7)、人形 6 点(図 3 の 8~13)がみつかっている。溝の幅は約 3.8m、最大深度 39 cm で、南北溝で溝の方角を考慮すると諏訪遺跡の SD23 とつながる可能性がある。人面土器は、土師器小型甕や鍋を利用している。顔は 3 面、4 面、5 面のものがあり、すべて書き手は違うように見える。また、仏を描いた土器(図 3 の 1)もある。人面土器の年代は、8 世紀後葉から 9 世紀初頭とされる。人形は、怒り肩で手があるタイプが 2 点(図 3 の 8・9)あり、サイズ違いのセット関係かと思われる。また、頭部のみの出土であるが、図 3 の 10 は長さ 8.2 cm、幅 4.5 cm、図 3 の 11 は長さ 9.2 cm、幅 3 cm の大きさであり、下佐野遺跡で出土しているような大型の人形が想定できる。

なお、SD011 の北端部には東西に広がる窪地(SX001)が接している。同時期の遺構と考えられており、最大幅で約 4m、最大深度 39 cm である。斎串が 3 点(図 3 の 14~16)出土し、下端が尖るタイプ(図 3 の 14・16)、両側面に切込みが入るタイプ(図 3 の 14)が出土している。

溝(SD011)の西方約 100m に位置する溝(SD01・SD03)から土師器小型甕の人面土器(図 3 の 6)が出土している。口径は 9.7 cm。器高は 8.7 cm 以上である。両溝から出土した破片が接合関係にあり 1 点となる。木製遺物は出土していない。溝(SD01)の幅は約 17m、最大深度 1.15m で、北部分には護岸施設が設置される。SD03 は、SD01 の東側に隣接する。幅 2.8~4.3m で、深さ 40 cm である。SD01 からは「西家」の墨書き土器が出土している。

## >2 160%4G2\$

•4G2\$ c 9x , w,5 ... AE\_d ~ M • W,54G2\$ b !0Y \_7,,KKZ8• W , æ b4G ScAbs  
è KZ>~ a(Öæbœ >| >k b A 6' ? } Çg !! W b \ô 6ä# @ uKZ8•  
Ç8 uþc uKZ8^8 • Ac!íA[%o)c%?í†¥8Z>~ g"g^]?}0dAìl€S #ìA  
læ¬l€Z8• Ab‰0...†f ÖM•%‰!i)>?4G2\$ b 6' \_X^@•\\*f <}€•  
Çg c 80E4Š ?}+4Š (@ gWZ>~ gÑ4Š ([6x l I œ I L I H[6• \*ê4Šcã  
~\*ê[ 80E4Š ?}\*ê4Š l b 8~‰ t0b•\ U È4†æ[ 6€d i9x CE4G2\$ &^<4†æ[ 6€dp->@4G2\$  
b Çg \_8® M• Zic^8|[6•

## >0 r\u

Gb|:\_ a(Ö<>| a(Ö\_?EZ ¾OE`4G2\$†μuS 4G2\$[ A^]? } Ç8 uþx OE0 4G  
"@ @ uM•...!!@ •d&1 l€Z8• p\_cÇ8 uþ !!OE0 4G"@@ -μº[ uM•...!!x  
!!\_v|j OE0 4G" @ †&1 [ A•...!!^] @ 6~ 2zp\[c?^~±0d•^z b/œ!m @/œf €S\  
\*f <}€• rS&^<4†b4†C Ü3AE[ C#ú&•m†/œ: \KZU È4†\_WZ50[^...æ\_6S•  
\i U È4†c\Ó @4Ä\*(l€S4†æ[ 6~G€} ...!l c>b>b "", [0‡ l€Sf E[c^C  
2zp\Ó 1¾‰¥(Ü J\_)\*(M• @ z\_K &z b @ XC}€S\• KZ8• GbG\c 5 È  
¶@æ¬KZ8•|:\_ 4" Üx#?\\ ]\_ 2zp\[v0 Xb&z b t0‡ E•P!)&z @/œf €S\  
N [ A 4" Ü/lœf €S&•mbx~‰ @ ...æ\_r[ ÈrWZ8•G\†&gKZ8•\\*f <}€•  
'1\*...cèS Ç8 uþ\OE0 4G" @ b-μ‰ö€? } g\*... @ -μº[ uM• œb&z^] b/œ!m b z  
/c\Ó\4† OE0 4G" @ b s b œc 4" x9P ` \\*f 9KSG\@ 6• GbG\?} OE0  
4G" @ b s @ uM•¾OE`4G2\$ c xOE4“\_š 1€•G\? } 4" b È Yb&z^] b/œ!m \\*f <Z8  
S K?K ¾OE`4G2\$†μuØ3¶ 4G2\$[ &z @/œf €Z8 S\ M€d &z b z/\*...c Ç8 uþ\OE0  
4G" @ b g\*...†Q#Y M•G\†#.0žKZ>~ \ÓvKCc4† \• [ A• &z b0d•x d b0‡ †\*f  
ÖM•\ S3ÙM•|:\_ 2zp\Ó @ z/\*... \\*f <}€•  
2zp\[c a(Ö 68OE ? } Ç8 uþ† Q#Y M•rL^8 @/œf €Z>~ u!l X v¥•• [q±  
[6• rS uþ\_eC8!v8 \_N @\_e?€•l i« @ "C Šç‡b&•m†Å \_wE°€Z8  
•\\*f <}€• rS uþ\_8!†e?^8 Ç8 uþv uKZ>~ 4" Ü\ b18) gXA @1 u}€  
• Gb|:\_G\†ü \_K^@ } P!)&z @2zp\[v/œf €•G\ \^WSb[6•:  
@

4' &k` Ü9 ¥•T•±\¾>1 8k  
5 Èñ... 1Ü‡&• \gT•,'\$@9%È2 ï 7Ý 1%È2 ,æb&•m\TM\i\ \gT•,'\$@  
9 8k  
ü&xM ,æ2zp\bÇ8 Ziup\_X8Z9x,wS%T9(ÖO[•9x,wS%T9 8k  
ü&xM 2zp\bŠç&•m½\4G2\$)Fe2 Ül=7Ý e2 Ül=7Ý+œ 8k

e©

¶2 ) £%4 e i ú+AE2 K Ü-¶ e i2 1\* | » d W;#ã4G2\$ W,54G2\$ 160%4G2\$ -¶5 #ë ¾4G2\$ 9V g  
!4G2\$ \$@1\* |  
9x , w M\*ñ \$( w AE4G2\$1\* + ñ:1B °Ø ¶#ã 4G2\$ b1\* Ú:  
9x , w M\*ñ \$( %¼/4G2\$ 1¾OE`4G2\$1\* |  
9x , w M\*ñ \$( ¾OE`4G2\$1\* | :w4( è È#ëUN%0Y.( 1-¶)z d l\_ :1B °Ø b1\* :  
9x , w M\*ñ \$( w AE4G2\$1\* + ñ è ñ:1B °Ø #^<\_N4G2\$ 16` ò ý Ž4G2\$ b1\* Ú:  
9x , w M\*ñ \$( w AE4G2\$1\* + ñ ñ è:1B °Ø W,54G2\$ 1ñN... b1\* Ú:  
9x , w M\*ñ \$( %¼ i)!>?4G2\$1\* |  
9x , w M\*ñ \$( ) £%49x , w w AE4G2\$1\* + :ç ô-°Ø ¾OE`4G2\$ b\$@1\* | Ú:  
) £%4 Ü-¶ e i2 -å±î ) £%49x , w W,54G2\$ \$@1\* | i £WžÅ 7\7g4(b\$@0b

%%4 ¡>?4G2\$

160%4G2\$

>| í >| 6'      >| Ç8 uþ  
6'    í 6'      í >| ju  
>| 6;        >| í Çg

%4 œ `4G2\$>&4" w0£#4(2° ... >'

>| 6'  
>| ju  
>| Çg  
í "g  
#Fg

%4 œ `4G2\$>&4" w0£#4(2° ... >'

%4 œ `4G2\$>& ü - ... >'

>| 6;  
>| 63        6.  
í >| ju    >| Çg

>| 6;  
>| Çg    >| ju    í "g    +Úg    :ýg    í #F g    >| 9?g

W    %%4 ¡>?4G2\$ í 160%4G2\$ í %4 œ `4G2\$ u    Ç8 uþ>& >8 >' œ0 4G" @>& >8 >'

>| í 6'  
í 6'  
>| í Çg >| ju  
í +Úg >| 9?g  
>| Ç8 uþ Zeuþ

W W,5 4G2§ u Ç8 u þ'¼>& >8 >' œ0 4G" @>& >8 »& b s >8 >'